

授業名: 理学療法評価学(1/2)

※実務経験のある教員の授業科目

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
橋本 雅郎	病院 25年勤務	橋本	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	前期・月 3	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 臨床実習に向けてレポートの作成演習を行い、理学療法を実施するにあたっての系統的評価から治療プログラム立案までの臨床思考過程の基本的流れを把握する。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 問題解決力 創造的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①デイリーノート、ケースノート、ケースレポート、レジュメの作成方法を習得する。 ②整形外科、中枢神経疾患の典型的症例のレポートが妥当な時間で作成できる。 ③作成する過程の中で、評価から統合と解釈、考察するまでの臨床思考能力を習得する						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	理学療法評価		評価の目的とその記録の必要性について理解する			
2	臨床思考過程の基本的流れ		臨床推論プロセスとその記録の必要性について理解する			
3	デイリーノート		作成目的と方法を理解し記載内容とその書き方を学ぶ			
4	ケースノート		作成目的と方法を理解しSOAPとICFに沿った記載法を学ぶ			
5	ケースレポート		作成目的と方法を理解し基本項目を挙げてその書き方を学ぶ			
6	レポートのレジュメ		作成目的と方法を理解しケースレポートの要点を簡潔にまとめる			
7	変形性膝関節症①		ケースレポート作成までの流れを理解する			
8	変形性膝関節症②		症例のレポートを作成し臨床推論プロセスについて理解する			
9	変形性膝関節症③		レジュメの例を参考に作成までの流れを理解する			
10	大腿骨近位部骨折①		ケースレポート作成までの流れを理解する			
11	大腿骨近位部骨折②		症例のレポートを作成し臨床推論プロセスについて理解する			
12	大腿骨近位部骨折③		レジュメの例を参考に作成までの流れを理解する			
13	脳卒中(急性期)①		ケースレポート作成までの流れを理解する			
14	脳卒中(急性期)②		症例のレポートを作成し臨床推論プロセスについて理解する			
15	脳卒中(急性期)③		レジュメの例を参考に作成までの流れを理解する			
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験 60% 課題の達成度 20%	受講態度	20%
【教科書】臨床実習フィールドガイド 改訂第2版(南江堂)						
【参考書】PT症例レポート赤ペン添削ビフォー&アフター(羊土社) 理学療法臨床実習サポートブック(医学書院)						
【履修上の注意】グループワークに積極的に参加すること。パーソナルコンピュータを用意すること。						
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】	教員室にて	随時

授業名: 理学療法評価学(2/2)

※実務経験のある教員の授業科目

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
橋本 雅郎	病院 25年勤務	橋本	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	後期・水 1・2	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 臨床実習に向けてレポートの作成演習を行い、理学療法を実施するにあたっての系統的評価から治療プログラム立案までの臨床思考過程の基本的流れを把握する。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 問題解決力 創造的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①デイリーノート、ケースノート、ケースレポート、レジメの作成方法を習得する。 ②整形外科、中枢神経疾患の典型的症例のレポートが妥当な時間で作成できる。 ③作成する過程の中で、評価から統合と解釈、考察するまでの臨床思考能力を習得する						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	脳卒中(回復期)①		ケースレポート作成までの流れを理解する			
2	脳卒中(回復期)②		症例の臨床推論プロセスを理解する			
3	脳卒中(回復期)③		症例のレポートを作成し臨床推論プロセスについて理解する			
4	脳卒中(回復期)④		レジメの例を参考に作成までの流れを理解する			
5	脳卒中(維持期)①		ケースレポート作成までの流れを理解する			
6	脳卒中(維持期)②		症例の臨床推論プロセスを理解する			
7	脳卒中(維持期)③		症例のレポートを作成し臨床推論プロセスについて理解する			
8	脳卒中(維持期)④		レジメの例を参考に作成までの流れを理解する			
9	パーキンソン病①		ケースレポート作成までの流れを理解する			
10	パーキンソン病②		症例の臨床推論プロセスを理解する			
11	パーキンソン病③		症例のレポートを作成し臨床推論プロセスについて理解する			
12	パーキンソン病④		レジメの例を参考に作成までの流れを理解する			
13	小脳性運動失調①		ケースレポート作成までの流れを理解する			
14	小脳性運動失調②		症例のレポートを作成し臨床推論プロセスについて理解する			
15	小脳性運動失調③		レジメの例を参考に作成までの流れを理解する			
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験 60% 課題の達成度 20%	受講態度	20%
【教科書】臨床実習フィールドガイド 改訂第2版(南江堂)						
【参考書】PT症例レポート赤ペン添削ビフォー&アフター(羊土社) 理学療法臨床実習サポートブック(医学書院)						
【履修上の注意】グループワークに積極的に参加すること。パーソナルコンピュータを用意すること。						
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】	教員室にて	随時

授業名: 中枢系理学療法学Ⅱ(1/3)

※実務経験のある教員の授業科目

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
添田 健仁	病院 17年勤務	添田	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)
			【曜日・コマ】	前期A・金 1・2 前期B・金 3・4	【授業形態・単位】	演習・実習 3
【授業の概要】 中枢神経疾患患者に対する理学療法の理論を理解し、臨床現場で行われている様々なアプローチ方法を実技を中心に学ぶ					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】 ①中枢神経疾患についての理解を深める ②臨床現場で用いられる各種アプローチ方法の基礎的な概要を理解する ③各種アプローチ方法の実技を体験することでより理解を深める						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	中枢神経疾患に対する評価	脳血管障害の評価法について学ぶ 脳血管障害に対する評価の進め方を理解することが出来る				
2	中枢神経疾患のプログラムの作成	中枢神経疾患のプログラムの作成 脳血管障害者の治療プログラムを作成することが出来る				
3	急性期・回復期理学療法の目的	急性期・回復期の理学療法の実技について学ぶ 急性期・回復期の理学療法を実際に行うことが出来る				
4	急性期・回復期理学療法の目的	急性期・回復期の理学療法の実技について学ぶ 急性期・回復期の理学療法を実際に行うことが出来る				
5	脊髄損傷について	脊髄の機能解剖や脊髄損傷の原因について理解する 脊髄の機能解剖や脊髄損傷の症状について説明が出来る				
6	脊髄損傷の理学療法	脊髄損傷に伴う症状について理解する 脊髄損傷に伴う症状について説明することが出来る				
7	脊髄損傷の理学療法	脊髄損傷の評価の考え方について理解する 脊髄損傷の評価項目を挙げる事が出来る				
8	外傷性脳損傷について	急性硬膜下血腫、硬膜外血腫、びまん性軸索損傷について学ぶ 急性硬膜下血腫、硬膜外血腫、びまん性軸索損傷について説明できる				
9	運動失調の理学療法	運動失調の病因・症状について学ぶ 運動における小脳の働きを説明することが出来る				
10	運動失調の理学療法	失調症の理学療法に対する考え方を学ぶ 失調症の運動療法に必要な固有感覚の情報について説明が出来る				
11	パーキンソン病とは	パーキンソン病の病因と症状について学ぶ パーキンソン病の病因と症状について説明することが出来る				
12	パーキンソン病の理学療法	パーキンソン病の治療の実技を学ぶ パーキンソン病の治療の実践する事が出来る				
13	パーキンソン病の理学療法	パーキンソン病の治療の実技を学ぶ パーキンソン病の治療の実践する事が出来る				
14	多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症について	多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症の病因と症状の特徴について学ぶ 多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症の病因と症状の特徴について説明することが出来る				
15	多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症について	多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症の評価と治療の実技を学ぶ 多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症の評価と治療を実践することが出来る				
期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験	100%		
【教科書】標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 医学書院 脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版 文光堂						
【参考書】細田多穂・柳沢健編集:理学療法ハンドブック[改訂第3版]第2巻 治療アプローチ. 協同医学出版社 脳卒中理学療法の理論と基礎 行動変容を導く! 上肢機能回復アプローチ脳卒中上肢麻痺に対する基本戦略						
【履修上の注意】実技が多くなるので、動きやすい服装で参加する。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	メール連絡	t-soeta@k-tohto.ac.jp	

授業名: 中枢系理学療法学Ⅱ(2/3)

※実務経験のある教員の授業科目

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
添田 健仁	病院 17年勤務	添田	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)
			【曜日・コマ】	前期A・金 1・2 前期B・金 3・4	【授業形態・単位】	演習・実習 3
【授業の概要】 中枢神経疾患患者に対する理学療法の理論を理解し、臨床現場で行われている様々なアプローチ方法を実技を中心に学ぶ					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】 ①中枢神経疾患についての理解を深める ②臨床現場で用いられる各種アプローチ方法の基礎的な概要を理解する ③各種アプローチ方法の実技を体験することでより理解を深める						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	高次機能障害 総論	高次機能障害について理解する 高次機能障害について説明できる				
2	高次機能障害のリハビリテーション	記憶障害、注意障害の評価とリハビリテーションについて理解する 記憶障害、注意障害の評価とリハビリテーションについて説明できる				
3	高次機能障害のリハビリテーション	失認、失行、遂行機能障害の評価とリハビリテーションについて理解する 失認、失行、遂行機能障害の評価とリハビリテーションについて説明できる				
4	ボバース概念	ボバース概念治療の実際について体験する				
5	人間発達学的アプローチの実技	ヒトが生まれてから歩くまでの発達段階に分けたアプローチについて学ぶ ヒトが生まれてから歩くまでの発達段階に分けたアプローチを行うことができる				
6	促通反復療法	促通反復療法の概要について理解する 促通反復療法の概要について説明できる				
7	促通反復療法	促通反復療法の実技を理解する 促通反復療法の実技を行うことができる				
8	促通反復療法	促通反復療法の実技を理解する 促通反復療法の実技を行うことができる				
9	促通反復療法	促通反復療法の実技を理解する 促通反復療法の実技を行うことができる				
10	促通反復療法	促通反復療法の実技を理解する 促通反復療法の実技を行うことができる				
11	促通反復療法	促通反復療法の実技を理解する 促通反復療法の実技を行うことができる				
12	CI療法, 課題指向型アプローチ	CI療法, 課題指向型アプローチの概要について理解する CI療法, 課題指向型アプローチの概要について理解する				
13	CI療法, 課題指向型アプローチ	CI療法, 課題指向型アプローチの実際について体験する CI療法, 課題指向型アプローチの実際について体験する				
14	中枢神経疾患に対する治療法	中枢神経疾患に対する治療手技(トピックス) 中枢神経疾患に対する色々な治療手技について挙げる事ができる				
15	中枢神経疾患に対する治療法	中枢神経疾患に対する治療手技(トピックス) 中枢神経疾患に対する色々な治療手技について挙げる事ができる				
期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験	100%		
【教科書】標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 医学書院 脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版 文光堂						
【参考書】細田多穂・柳沢健編集:理学療法ハンドブック[改訂第3版]第2巻 治療アプローチ. 協同医学出版社 脳卒中理学療法の理論と基礎 行動変容を導く!上肢機能回復アプローチ脳卒中上肢麻痺に対する基本戦略						
【履修上の注意】実技が多くなるので、動きやすい服装で参加する。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	メール連絡	t-soeta@k-tohto.ac.jp	

授業名： 中枢系理学療法学Ⅱ(3/3)

※実務経験のある教員の授業科目

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
遠藤 敏裕	病院 26年勤務	添田	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)
			【曜日・コマ】	後期A・木 1・2 後期B・火 1・2	【授業形態・単位】	演習・実習 3
【授業の概要】 中枢神経疾患患者に対する理学療法の理論を理解し、臨床現場で行われている様々なアプローチ方法を実技を中心に学ぶ					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】 ①中枢神経疾患についての理解を深める ②臨床現場で用いられる各種アプローチ方法の基礎的な概要を理解する ③各種アプローチ方法の実技を体験することでより理解を深める						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	制御理論的アプローチ (遠藤)	制御理論的アプローチの理論を学ぶ 制御理論的アプローチについて説明することが出来る				
2	制御理論的アプローチ:上肢 (遠藤)	上肢に対する制御理論的アプローチについて学ぶ 上肢に対する制御理論的アプローチを実践することが出来る				
3	制御理論的アプローチ:下肢 (遠藤)	下肢に対する制御理論的アプローチについて学ぶ 下肢に対する制御理論的アプローチを実践することが出来る				
4	制御理論的アプローチ:体幹 (遠藤)	体幹に対する制御理論的アプローチについて学ぶ 体幹に対する制御理論的アプローチを実践することが出来る				
5	PNFとは (遠藤)	PNFの理論的背景について学ぶ PNFの理論的背景について説明できる				
6	上肢のPNF (遠藤)	上肢の各関節を軸とした3軸運動を抵抗運動、抵抗介助運動・介助運動に分けて行うことが出来る。 肩関節を中心としたパターンを実践することが出来る				
7	上肢のPNF (遠藤)	上肢の各関節を軸とした3軸運動を抵抗運動、抵抗介助運動・介助運動に分けて行うことが出来る。 肩関節を中心としたパターンを実践することが出来る				
8	下肢のPNF (遠藤)	下肢の各関節を軸とした4軸運動を抵抗運動、抵抗介助運動・介助運動に分けて行うことが出来る。 股関節を軸としたパターンを実践することが出来る				
9	下肢のPNF (遠藤)	下肢の各関節を軸とした4軸運動を抵抗運動、抵抗介助運動・介助運動に分けて行うことが出来る。 股関節を軸としたパターンを実践することが出来る				
10	体幹のPNF (遠藤)	体幹の各関節を軸とした4抵抗運動、抵抗介助運動・介助運動に分けて行うことが出来る。				
11	まとめ (遠藤)					
12	脳画像と臨床症状 (阿部)	脳画像を把握する意義について理解する 各種脳画像の特徴と見方を理解する				
13	脳画像と臨床症状 (阿部)	脳画像における皮質脊髄路と言語野を理解する 臨床症状と脳画像から理学療法プログラムを立案する過程について理解する				
14	運動学習と理学療法 (木村)	運動学習の概念について理解する 運動学習の概念について説明することができる				
15	運動学習と理学療法 (木村)	運動学習の概念について理解する 運動学習の概念について説明することができる				
期末試験	後期期末試験	評価方法	実技試験	50%		
			筆記試験	50%		
【教科書】標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 医学書院 脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版 文光堂						
【参考書】細田多穂・柳沢健編集:理学療法ハンドブック[改訂第3版]第2巻 治療アプローチ. 協同医書出版社 脳卒中理学療法の理論と基礎 行動変容を導く! 上肢機能回復アプローチ脳卒中上肢麻痺に対する基本戦略						
【履修上の注意】実技が多くなるので、動きやすい服装で参加する。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】			
			教員室にて			

授業名: 呼吸・循環器系理学療法学(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
川崎 萌絵	病院 8年勤務	川崎	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	火 1	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 内部障害の病態・生理的背景について理解し、また各疾患ごとの理学療法評価・プログラム・リスク管理に関して学ぶ科目です。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①呼吸器の構造・機能について説明できる ②呼吸器疾患のメカニズムについて説明できる ③呼吸器疾患に対する理学療法評価・プログラム・リスク管理が実施できる					知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	呼吸理学療法とは	呼吸理学療法の概要を理解する 呼吸器疾患の現状を知り、呼吸理学療法の必要性を認識する				
2	呼吸器の解剖と生理	呼吸理学療法を学ぶ上で必要な、解剖・生理について理解する				
3		気管・気管支・肺・肺胞・胸郭などの解剖と呼吸のメカニズムについて説明できる				
4	呼吸器疾患とそのメカニズムについて	低酸素血症および換気障害の分類について理解する 拘束性・閉塞性肺疾患とそのメカニズムについて説明できる				
5						
6						
7	呼吸理学療法評価	視診・聴診・触診など呼吸理学療法に必要な評価項目を学ぶ				
8						
9	呼吸理学療法手技	呼吸理学療法に必要な評価について実技を通して学ぶ				
10						
11	呼吸理学療法:評価実技	聴診, 触診などの評価どの手技を体験する				
12						
13	呼吸理学療法:治療実技	呼吸介助法や体位肺痰法などの手技を体験する				
14						
15	まとめ	呼吸理学療法のまとめ				
期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験	100%		
【教科書】内部障害理学療法学 呼吸 第2版 15レクチャーシリーズ理学療法テキスト						
【参考書】特に指定しない						
【履修上の注意】毎回の講義の終わりに、次回の講義の内容をアナウンスするので、予習を行ってこよう。						
【本講義に関する質問先】 科目責任者 【質問方法】 教員室にて						

授業名: 呼吸・循環器系理学療法学(2/2) ※実務経験のある教員の授業科目

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
川崎 萌絵	病院 8年勤務	川崎	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	A・月 1・2	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】					【受講して得られる力】	
内部障害の病態・生理について確認するとともに、各疾患ごとの理学療法の評価・プログラム・リスク管理について学ぶ。また、代謝性疾患について特別講義を通じて学ぶ。					知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【学習目標(到達目標)】						
①呼吸器の構造・機能について説明できる ②呼吸器疾患のメカニズムについて説明できる ③呼吸器疾患に対する理学療法評価・プログラム・リスク管理が実施できる						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	循環器の基礎①		循環器系の解剖、生理を理解する 心臓リハビリテーションに必要な基礎知識を整理する			
2						
3	循環器の基礎②		心電図・不整脈の診かたについて、課題を実施し心電図への理解を深める			
4						
5	循環器疾患に対する評価		運動耐容能とその評価について理解する			
6	循環器疾患の病態・検査と治療		虚血性心疾患、心臓弁膜症、心筋症などの 循環器疾患の病態と検査・治療について理解する			
7						
8						
9	虚血性心疾患に対する理学療法		ケーススタディをし、評価計画・解釈・治療プランの 立案を実施する			
10						
11	リスク管理		呼吸・循環器疾患におけるリスク管理について学び、救急救命法についての理解を深める			
12						
13						
14	心大血管術後の理学療法		心大血管術後のリスク管理と理学療法について理解する			
15	まとめ		呼吸循環器系理学療法学のまとめ			
期末 試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】 内部障害理学療法学 循環・代謝 第2版 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト						
【参考書】これならわかる！心電図の読み方～モニターから12誘導まで～						
【履修上の注意】 毎回の講義の終わりに、次回の講義の内容をアナウンスするので、予習を行ってこよう						
【本講義に関する質問先】 科目責任者			【質問方法】 教員室にて			

授業名: 理学療法演習 I

※実務経験のある教員の授業科目

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
安藤 由香里	クリニック 7年勤務	安藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 1	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 社会人(医療人)になるために、必要なコミュニケーションスキル・文章能力を理解し、修得する科目です。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①理学療法士に必要なことを考え、説明することができる。 ②コミュニケーションについて学び、学生生活に活かす事が出来る。 ③文章読解・文章作成能力について学び、文章検定3級を取得する。					チームで働く力 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 態度・志向性	
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	理学療法士を目指す	理学療法士になるために必要なことを理解する スライドによる説明とグループワークを通し学ぶ				
2	社会で働くために必要な力とは	なぜコミュニケーションを学ぶのか、社会人基礎旅行とは何かを理解する スライドによる説明とグループワークを通し学ぶ				
3	コミュニケーションスキルとは	コミュニケーションについて定義からスキルについて理解する。 スライドによる説明とグループワークを通し学ぶ				
4	コミュニケーションにおける解決と解消	コミュニケーションを通して問題解決の仕方を理解する。 スライドによる説明とグループワークを通し学ぶ				
5	学生としてのコミュニケーション	学生時代身につけたいコミュニケーションについて理解する。 スライドによる説明とグループワークを通し学ぶ				
6	臨床実習で求められるコミュニケーション	臨床実習で求められるコミュニケーションについて理解する。 スライドによる説明とグループワークを通し学ぶ				
7	臨床現場でのコミュニケーション	理学療法士として、臨床現場に必要なコミュニケーションについて理解する。 スライドによる説明とグループワークを通し学ぶ				
8	メンタルヘルスとコミュニケーション	メンタルヘルスとコミュニケーションの影響について理解する。 スライドによる説明とグループワークを通し学ぶ				
9	臨床で役立つスキル ～臨床現場のマナー～	臨床現場でのマナー、学生としてのマナー、標準予防策を知る スライドによる説明とグループワークを通し学ぶ				
10	臨床で役立つスキル ～個人情報の取り扱い～	SNS等の利用の仕方を含め、個人情報の取り扱いについて知る スライドによる説明とグループワークを通し学ぶ				
11	文章検 ～語彙・文法～	教科書の「第1章」を解き、内容を理解する。 グループワークを通し理解を深める。				
12	文章検 ～資料分析～	教科書の「第2章」を解き、内容を理解する。 グループワークを通し理解を深める。				
13	文章検 ～文章読解～	教科書の「第3章」を解き、内容を理解する。 グループワークを通し理解を深める。				
14	文章検 ～手紙文～	教科書の「第4章」を解き、内容を理解する。 グループワークを通し理解を深める。				
15	文章検 ～意見文～	教科書の「第5章」を解き、内容を理解する。 グループワークを通し理解を深める。				
期末試験	後期期末試験	評価方法	筆記試験	100%		
【教科書】会話例とワークで学ぶ理学療法コミュニケーション論 / 基礎から学べる文章力ステップ文章検3級対応						
【参考書】特に指定しない						
【履修上の注意】						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			



授業名: 日常生活技術論(1/2)

※実務経験のある教員の授業科目

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2	
齋藤 航	病院 9年勤務	齋藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	水 1・2	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 対象者の生活像を把握する為に日常生活活動(ADL)の概念や範囲を理解し、必要な評価とその方法を身につけます。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①ADLの概念と範囲を説明できる。 ②代表的なADL評価(BI、FIM)を実際に施行できる。 ③ADLとQOLの関係性について説明できる。					考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 問題解決力		
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション 総論		科目概要、本講義の意義、すすめ方の説明 日常生活活動のイメージを得ます。				
2	ADLの概念と範囲		ADLの概念と範囲を学びます。 ADLの位置付け、APDL、IADL				
3	ADLの概念と範囲		ADLの概念と範囲を学びます。 障害とは				
4	ADLの概念と範囲		ADLの概念と範囲を学びます。 ADL指導、さまざまなADL指導				
5	日常生活の評価		実際に使用することを想定し、ADLの評価法を理解します。 バーセルインデックス				
6	日常生活の評価		実際に使用することを想定し、ADLの評価法を理解します。 バーセルインデックス				
7	日常生活の評価		実際に使用することを想定し、ADLの評価法を理解します。 FIM				
8	日常生活の評価		実際に使用することを想定し、ADLの評価法を理解します。 FIM				
9	日常生活の評価		実際に使用することを想定し、ADLの評価法を理解します。 FIM				
10	日常生活の評価		実際に使用することを想定し、ADLの評価法を理解します。 FIM				
11	日常生活の評価		実際に使用することを想定し、ADLの評価法を理解します。 FIM				
12	ADLとQOL		ADLとQOLの関係性について学びます。 HR-QOL、NHR-QOL				
13	ADLと国際分類		国際分類におけるADLについて学びます。 障害分類と生活機能分類				
14	ADLと国際分類		国際分類におけるADLについて学びます。 原因と結果				
15	まとめ		前期のまとめ				
期末 試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験	100%		
【教科書】PT・OTビジュアルテキスト ADL(洋土社)、脳卒中の機能評価 SIASとFIM[基礎編](金原出版)							
【参考書】参考になるものがあれば、その都度紹介します。							
【履修上の注意】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 日常生活技術論(2/2)

※実務経験のある教員の授業科目

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2	
安藤 由香里	クリニック 7年勤務	齋藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	水 1・2	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 対象者の生活像を把握する為に日常生活活動(ADL)の概念や範囲を理解し、必要な評価とその方法を身につけます。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①疾患のADL動作の特徴を説明することができる。 ②ADL動作の指導、介助方法を説明することができる。					考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 問題解決力		
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	指導と介助方法の基本 脳卒中片麻痺		脳卒中片麻痺患者の身体機能特徴を理解する。				
2	指導と介助方法の基本 脳卒中片麻痺		脳卒中片麻痺患者のADL動作の特徴を理解する。				
3	指導と介助方法の基本 脳卒中片麻痺		脳卒中片麻痺患者の介助方法と指導方法を理解する。				
4	指導と介助方法の基本 脊髄損傷		脊髄損傷について機能障害について理解する。				
5	指導と介助方法の基本 脊髄損傷		脊髄損傷患者(四肢麻痺)のADL動作の特徴を理解する。				
6	指導と介助方法の基本 脊髄損傷		脊髄損傷患者(対麻痺)のADL動作の特徴を理解する。				
7	指導と介助方法の基本 パーキンソン病		パーキンソン病患者のADL動作の特徴を理解する。				
8	指導と介助方法の基本 神経筋疾患		神経筋疾患患者のADL動作の特徴を理解する。				
9	指導と介助方法の基本 認知症		認知症患者のADL動作の特徴を理解する。				
10	指導と介助方法の基本 脳性麻痺		脳性麻痺患者のADL動作の特徴を理解する。				
11	指導と介助方法の基本 呼吸器疾患		呼吸器疾患患者のADL動作の特徴を理解する。				
12	指導と介助方法の基本 心疾患		心疾患患者のADL動作の特徴を理解する。				
13	指導と介助方法の基本 関節リウマチ		関節リウマチ患者のADL動作の特徴を理解する。				
14	指導と介助方法の基本 人工関節全置換術		人工関節置換術患者のADL動作の特徴を理解する。				
15	指導と介助方法の基本 下肢骨折		下肢骨折患者のADL動作の特徴を理解する。				
期末 試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験	100%		
【教科書】PT・OTビジュアルテキスト ADL(洋土社)、脳卒中の機能評価 SIASとFIM[基礎編](金原出版)							
【参考書】特に指定しない							
【履修上の注意】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名: 筋骨格系理学療法学(1/3)

※実務経験のある教員の授業科目

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3	
荒木 芳一	病院 12年勤務	荒木	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)	
			【曜日・コマ】	前期A・金 3・4 前期B・金 1・2	【授業形態・単位】	講義 3	
【授業の概要】 種々の運動器障害に対する基本的な手技の理論が理解でき、実際に学生同士でその手技を実行できるようにする。本講義は講義形式と演習形式が含まれる。					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験 論理的思考力		
【学習目標(到達目標)】 ①種々の運動器障害の病態に対する知識を習得し理解を深める。 ②種々の運動器障害に対する評価と治療法に関する考え方を理解する。 ③種々の運動器障害に対する検査と治療手技を行える。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	組織再生・修復①—総論		組織修復、組織再生に伴う理学療法実施上の注意点を理解する 炎症過程、修復過程にあわせた治療理論				
2	組織再生・修復②評価と治療		炎症の5徴候についての基本的な評価手技が実践できる				
3	組織再生・修復③評価と治療		周径測定、筋力、関節可動域、疼痛スケール、炎症治療				
4	骨折と脱臼①総論		骨折と脱臼の定義と病体について理解する				
5	骨折と脱臼②治療と評価		骨折と脱臼全般に通ずる評価と治療について理解する				
6	骨折と脱臼③上肢骨折		関節可動域訓練、筋力増強トレーニング、ADLTトレーニング				
7	骨折と脱臼④大腿骨頸部骨折		高齢者の運動特性、上肢骨折の保存的、観血的治療について理解する				
8	骨折と脱臼⑤脊椎圧迫骨折		脊椎圧迫骨折について理解する				
9	四大骨折の評価と治療		四大骨折それぞれに対する評価と治療について実践できる				
10	四大骨折の評価と治療		関節可動域訓練、筋力増強トレーニング、骨折予防トレーニングなど				
11	変形性股・膝関節症①総論		変形性関節症の病態、基本的な治療、目的について理解する 変形性股関節症、変形性膝関節症				
12	変形性股・膝関節症②評価		基本的な評価と治療手技が実践できる 画像所見も含め総合的な評価を行う。				
13	変形性股・膝関節症③治療		関節可動域訓練、筋力増強トレーニング、ADLTトレーニングなど				
14	人工股・膝関節置換術①総論		人工関節の構造と機構、適応について理解する 人工骨頭、THA、TKAなど				
15	人工股・膝関節置換術②ADL'ex		人工関節術後のリスクを考慮した治療、日常生活指導ができる ADLTトレーニング、家庭での運動プログラム				
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験 70% 受講態度 10%	レポート	20%	
【教科書】運動器障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ(15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト)							
【参考書】PT・OTビジュアルテキスト局所と全身からアプローチする運動器の運動療法 第1版							
【履修上の注意】実習の際は、触診・実技が可能な服装を用意する。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名: 筋骨格系理学療法学(2/3)

※実務経験のある教員の授業科目

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3	
荒木 芳一	病院 12年勤務	荒木	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)	
			【曜日・コマ】	前期A・金 3・4 前期B・金 1・2	【授業形態・単位】	講義 3	
【授業の概要】 種々の運動器障害に対する基本的な手技の理論が理解でき、実際に学生同士でその手技を実行できるようにする。本講義は講義形式と演習形式が含まれる。					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解		
【学習目標(到達目標)】 ①種々の運動器障害の病態に対する知識を習得し理解を深める。 ②種々の運動器障害に対する評価と治療法に関する考え方を理解する。 ③種々の運動器障害に対する検査と治療手技を行える。					専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験 論理的思考力		
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	関節リウマチ①総論		関節リウマチについて病態、一般的な整形外科的、内科的治療が理解できる				
2	関節リウマチ②評価と治療		関節に負荷をかけない評価、治療が行える 関節可動域訓練、筋力増強トレーニング、運動プログラム、ADL指導				
3	末梢神経損傷①総論		末梢神経損傷の病態と回復過程が理解できる セドンの分類、診断、手術療法				
4	末梢神経損傷②評価と治療		末梢神経損傷の回復過程に即した評価と治療が実践できる				
5	頸部疾患①総論		代表的な頸部疾患の病態、神経根症と頸髄症の違いを理解できる 頸椎症、OPLL、頸椎椎間板ヘルニア				
6	頸部疾患②評価と治療		神経根症と頸髄症の症状に対する評価、理学療法が実践できる				
7	腰部疾患①総論		腰痛を伴う疾患についてその病態が理解できる 腰部の構造、腰部にかかる負荷、腰椎ヘルニアなど				
8	腰部疾患②評価と治療		腰部脊柱管狭窄症、腰椎分離症、腰椎すべり症、筋筋膜性腰痛など				
9	腰部疾患③評価と治療		腰痛の評価から治療を選択でき、実施できる 各種検査、腰痛体操、ストレッチング、姿勢矯正運動				
10	脊椎手術①		脊椎手術と対応する理学療法について理解し、 術所見読解のポイントが分かる				
11	脊椎手術②		術後の中枢・末梢性の神経障害に対する評価と治療が実践できる				
12	肩関節周囲炎①		肩関節の構造と機能、肩関節周囲炎の病態が理解できる 肩の構造と機能、障害部位、肩峰下滑液包炎、腱板断裂				
13	肩関節周囲炎②		上腕二頭筋長頭腱炎、石灰沈着性腱板炎、狭義の五十肩 肩関節周囲炎の評価と種々の病態に対応した治療が出来る				
14	特別講義		(佐藤) 臨床で理学療法士の役割を理解する				
15							
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験 70% 受講態度 10%	レポート	20%	
【教科書】運動器障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ(15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト)							
【参考書】PT・OTビジュアルテキスト局所と全身からアプローチする運動器の運動療法 第1版							
【履修上の注意】実習の際は、触診・実技が可能な服装を用意する。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 筋骨格系理学療法学(3/3)

※実務経験のある教員の授業科目

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3	
荒木 芳一	病院 12年勤務	荒木	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)	
			【曜日・コマ】	後期A・火 1・2 後期B・木 1・2	【授業形態・単位】	演習・実習 3	
【授業の概要】 種々の運動器障害に対する基本的な手技の理論が理解でき、実際に学生同士でその手技を実行できるようにする。本講義は講義形式と演習形式が含まれる。					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解		
【学習目標(到達目標)】 ①種々の運動器障害の病態に対する知識を習得し理解を深める。 ②種々の運動器障害に対する評価と治療法に関する考え方を理解する。 ③種々の運動器障害に対する検査と治療手技を行える。					専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験 論理的思考力		
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	肩の外傷①総論		外傷による肩関節障害の病態、整形外科的治療について理解できる 肩関節障害の発生機序、腱板断裂、関節唇損傷、鏡視下手術				
2	肩の外傷②評価と治療		肩の外傷の評価、カフトレーニングを中心とする治療が実践できる				
3	膝靭帯損傷と半月板損傷①		膝関節損傷の発生機所と病態、整形外科的治療について理解できる ACL損傷、PCL損傷、MCL損傷、半月板損傷				
4	膝靭帯損傷と半月板損傷②		膝固有の障害に対する評価ができる 不安定性テスト、筋力検査、特殊テスト、パフォーマンステスト				
5	膝靭帯損傷と半月板損傷③		膝固有の障害に対する治療ができる 関節可動域訓練、固有受容各トレーニングなど				
6	捻挫と肉離れ①		捻挫と肉離れの病態、整形外科的治療について理解できる 足関節捻挫、アキレス腱断裂、ハムストリングの肉離れ				
7	捻挫と肉離れ②		急性期から慢性期にかけての評価・治療が実践できる RICE処置、物理療法、筋力増強トレーニング、関節可動域訓練				
8	捻挫と肉離れ③		テーピングの理論について理解し、 テーピングを利用した足関節内反捻挫の予防ができる				
9	捻挫と肉離れ④		テーピングを利用した足関節内反捻挫の予防ができる				
10	捻挫と肉離れ⑤		障害予防のためのテーピングを実践できる				
11	臨床推論①		臨床的推論(clinical reasoning)の理論と臨床応用について理解する。				
12	臨床推論②		運動器障害を有する患者の動作から仮説を立て、評価項目を列挙できる				
13	臨床推論③		各評価結果に対する解釈を行い、小グループによる討論を行う				
14	臨床推論④		評価結果を吟味し、目標設定にあった統合と解釈を行うことができる				
15	臨床推論⑤		ICFによって問題点を抽出し、症例の目標設定、治療プランの立案ができる				
期末試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験 60% レポート 20%	実技試験	20%	
【教科書】運動器障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ(15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト)							
【参考書】PT・OTビジュアルテキスト局所と全身からアプローチする運動器の運動療法 第1版							
【履修上の注意】実習の際は、触診・実技が可能な服装を用意する。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて